



消防大学校だより



消防大学校新任消防長・学校長科における教育訓練

消防大学校では、消防吏員として消防業務に従事した経験のない新任の消防長・消防学校長に対し、その職に必要な知識及び能力を総合的に修得させることを目的に「新任消防長・学校長科」を設置しています。

本年度の「新任消防長・学校長科」は、第26期（4月16日～26日）が13名、第27期（5月13日～23日）が33名入校し、総員46名が11日間に及ぶ研修を終え、全員無事卒業しました。

研修では、黒田消防庁長官を始め、消防庁幹部による最新の消防行政の動向に関する講義や安藤全国消防長会会長による講話、各人が抱える課題等についての討議、及び消防人として必須である消防訓練礼式等を受講し、消防組織のトップとしての職責を認識するとともに、消防職の心構えについて積極的に学びました。

また、実科では実火災体験型訓練（ホットトレーニング）の見学や、防火衣及び空気呼吸器の装着体験を行い、消防職員の過酷な環境での現場活動の実態を理解しました。大規模地震時における常備消防と消防団との連携を想定した指揮シミュレーション訓練では、指揮者の状況判断の難しさや、各機関との連携の重要性について理解

を深めました。さらに、危機管理広報では、組織内で不祥事が起きた際の報道対応の実習を行い、危機事案発生時の適切な広報技術の向上を図ることができました。

研修を終えた学生からは、「消防長の職責をしっかりと認識し、かつ同じ不安を抱えていたことを解決するためのヒントが得られ、よい機会となりました。」「消防組織の長としての必要な基礎知識を、短期間のうちに効率的に得ることができました。」「市民の身体・生命・財産を守るという使命感と、部下職員の安全・健康管理・士気の高揚を図るということに、決意を新たにしました。」「伝統ある消防大学校に入校することができ、新たな仲間と学び、寮生活を過ごせたこと、また、この先も同期の仲間として親交を深めたことに喜びを感じています。」など、教育科目全般及び学生相互の交流を含め、有益であったと評価する意見が多数寄せられました。

今後は、一般行政職員の幹部としての経験や知識に加え、「新任消防長・学校長科」で習得した知識等をいかして、各組織のトップとして住民の安心・安全に貢献し、大いに活躍されることを期待します。

長官講話



指揮シミュレーション訓練



緊急消防援助隊教育科 指揮隊長コースにおける教育訓練 ～大規模災害対応 指揮シミュレーション訓練について～

消防大学校では、緊急消防援助隊の指揮支援部隊長等に対し、部隊運用、指揮要領及び広域消防応援体制等、その業務に必要な知識及び能力を修得させ、緊急消防援助隊指揮支援部隊長等としての資質を向上させることを目的に、緊急消防援助隊教育科指揮隊長コースの教育訓練を実施しています。今年度は、第21回（平成31年4月15日から4月25日まで）28名、第22回（令和元年5月7日から5月17日まで）47名、合計75名の学生が、所定の教育訓練を終え無事修了しました。

今回は、当コースにおいて実施した、大規模災害対応指揮シミュレーション訓練について紹介します。

1 授業構成

<1日目>

- 1・2時限目
緊急消防援助隊の概要等を復習・再確認しながら緊急消防援助隊関係参考資料（消防庁発行、通称「オレンジ本」）をチェック
- 3時限目
午後から行うシミュレーション訓練の説明
- 4～7時限目
各ブース（消防応援活動調整本部、被災地消防本部、緊急消防援助隊側A、緊急消防援助隊側B）に分かれ、シミュレーション訓練を反復実施

<2日目>

- 1～3時限目
訓練実施班と見取り訓練班に分かれてシミュレーション訓練を反復実施

2 講義のねらい

大規模災害発生時における緊急消防援助隊の出勤及び活動について、受援都道府県、被災地消防本部及び緊急消防援助隊の役割や動きを理解し、緊急消防援助隊の受援に関する部隊運用能力の向上を図るとともに、緊急消防援助隊の応援・受援について、概括的なスキームを確認すること。

3 想定及び活動の展開

- (1) 参考運用計画
首都直下地震における緊急消防援助隊アクションプラン（平成29年3月29日策定）
- (2) アクションプランの適用
東京都23区の区域において震度6強以上を観測これ以外に被害想定と同等以上の被害が見込まれ、緊急消防援助隊を運用することにより、迅速かつ的確な対応が可能であると消防庁長官が判断した場合
訓練では、神奈川県及び横浜市を中心とした活動を展開

(3) その他の参照計画等

- ・緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的な事項に関する計画
- ・緊急消防援助隊運用要綱
- ・静岡県・愛知県応援等実施計画（代表消防機関計画含む）
- ・神奈川県受援計画（調整本部）
- ・横浜市消防局受援計画等（被災地消防本部）

4 訓練概要

各ブースに設置されているモニター画面の情報と、コントローラー（教官）から手渡される状況付与カードをもとに、消防応援活動調整本部（神奈川県）、被災地消防本部（横浜市）、緊急消防援助隊側A（静岡県）、緊急消防援助隊側B（愛知県）の4つのブースに分かれて訓練を実施します。

毎回役割を変え、実際に動きながら反復訓練することに加え、2日目の訓練では訓練実施班と見取り訓練班に分かれて実施することで、この訓練のねらいである「緊急消防援助隊の役割・動き」について理解を深めるとともに、「受援に関する部隊運用能力」の向上と「応・受援の概括的なスキーム」を確認していきます。

研修を終えた学生からは、「受援体制の早期確立と指揮運用の重要性、また、関係機関との調整は非常に大事であり、難しいと再認識しました。」「都道府県大隊長としての役割の再認識と応援と受援の任務分担が明確にわかりました。」「初動態勢や全体の流れが掴め関係機関との調整が経験できた。」等の意見が多く寄せられました。

今後は、消防大学校での経験を元に、各所属においてさらに研鑽を重ね、有事の際には指揮者としての責務を果たすべく力を発揮するとともに、ともに汗を流した同期学生とのネットワークを活かし、それぞれの地域、そして全国規模での活躍が期待されます。



無線機、携帯電話、FAX等通信機器を使用した連絡調整

問い合わせ先

消防大学校教務部
TEL: 0422-46-1712